



2024（令和6）年度

二 中 だ よ り



第22号 2024（令和6）年9月27日 発行責任者 加賀谷 登

秋といえば何の秋？〇〇の秋に挑戦してみましよう！

朝夕は涼しくなり、日中もだいぶ過ごしやすくなってきました。ようやく秋を感じるできるようになりました。いろんな秋がありますが、みなさんはどんな秋が好きでしょうか。「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」・・・いろんな言われ方をしますが、実は〇〇の秋という言い方は、他の季節にはありません。それだけいろいろなことをするのに適しているのが秋です。そこで、今回は「〇〇の秋」について、その由来を紹介します。

食欲の秋

新米の季節です。お米だけでなく、秋には様々な食べ物が収穫されます。新鮮な魚介類も水揚げされます。現在ではハウス栽培や養殖、冷凍技術の進歩により、一年を通して大抵の物を食べられるようになりましたが、昔は、その季節にしか収穫できず、美味しいうちに食べてしまうという習慣がありました。収穫できる種類が多く、美味しく食べることができる秋のことを、食欲の秋というようになったのです。収穫時期のほかに、人間の体の面からも食欲の秋と言われる理由があります。秋になると人間の体の中でつくられる栄養素が少なくなります。その栄養素を作るには秋に旬を迎える食材から補わなければいけないそうです。また、冬に備えて、栄養分や脂肪分を体に蓄えなければいけません。だから、秋に食欲が増えるのは自然なことなのだそうです。

読書の秋

西暦700年代後半に中国の韓愈（かんゆ）という詩人が「灯火親しむべし」という詩を表したそうです。「秋の夜は過ごしやすいため、灯りをつけて読書をするのに一番適した季節」という意味だそうです。この詩を夏目漱石が小説「三四郎」で取り上げたことから、読書の秋というのが広まったそうです。

スポーツの秋

スポーツの秋は、東京オリンピック。2021年開催ではなく1964年に開催された東京オリンピックです。10月10日に開会式が行われたことがきっかけで、「体育の日」が制定されました。秋の涼しい気候がスポーツを楽しむのにちょうど適していることからスポーツの秋という言葉が広まりました。

芸術の秋

1918年に発行された雑誌『新潮』に「美術の秋」という言葉が使われていたそうです。これが語源になったと言われています。様々な展覧会や有名な美術展も秋に開催されています。また、俳句には秋を表す季語に「芸術祭」というのがあります。日本には昔から秋に芸術に親しむという風習があったようです。スポーツの秋と同じように芸術活動にちょうどよい気候というのも理由の一つです。

さあ、みなさんにとってはどの秋が身近でピンとききますか。この秋、自分だけの秋を楽しんでみてください。

おすすめの1冊
「はたらく細胞」 清水 茜 作

読書の秋です。秋の夜長をどう過ごしていますか。SNSやゲームばかりでなく、ぜひ、本を読んでください。2年1組担任鶴岡裕子先生のおすすめの1冊紹介します。

「おまたせしました。こちら本日分の酸素になります。」でおなじみの『はたらく細胞』です。この本の魅力は三つあります。一つ目は、赤血球や白血球といった細胞が擬人化されていて、わかりやすく面白いです。二つ目は、私たちの体の仕組みが学べます。インフルエンザにかかるとどうやって治すか知っていますか？熱中症になると体の中は大パニックなんですよ。出血性ショックが起きると生死をさまよう大事件が発生します。でも、私たちは生きていますし元気になります。なぜだろう？この疑問に答えてくれます。三つ目は、細胞の成長を応援したくなります。そして、24時間365日休むことなく働く細胞たちがいるから私たちは病気を治し、元気に過ごせています。今、この瞬間も細胞たちが頑張ってくれていると思うと、生きることの素晴らしさを感じられる作品です。みなさんも、ぜひ一度読んでみてください。

ちなみに、私の推しキャラは血小板です。小さくてかわいいです。でも、擦り傷などでケガをした時の傷口をふさぎ止血するなど、いつもお世話になっている細胞です。皆さんの推しキャラぜひ教えてください。